

1年生学年だより

令和4（2022）年9月7日
第16号
吹田市立第二中学校 第一学年

文化祭取り組みスタート

9月1日より、文化祭の取り組みが始まりました。前回の学年だよりでお知らせしたとおり、1年生は異文化共生を大きなテーマとして、部門ごとに活動しています。

1日6時間目には、各クラスで「青い目・茶色い目」という動画をみて差別とは何か、について考えました。

動画では、子どもたちがある日突然、目の色だけを理由にほめられたり制限をうけたりします。たった半日の体験ですが、子どもたち同士の関係性やふるまいかたに大きな影響がでていました。動画は疑似体験でしたが、実際にあのような状況におかれている人たちが今もいます。差別はどこでも起こり得ること、その時に自分はどうかふるまうべきかが、よくわかった1時間だったと思います。

取り組みを通して、さまざまな文化への理解を深め、尊重していく姿勢を身に付けてほしいと思います

- ・人は〇〇の方が上だといわれると、洗脳されてしまうんだなと思った。差別をしても誰も得にはならないし、されている側もいやな気持ちにしかならないと思った。
- ・もし自分があの時代に、白人として生まれていたら自分も周りと同じように、白人以外の人たちを差別してしまっていたかもしれないと思うと、そう思わせる世の中が怖いと思った。
- ・同じ人間なのに、見た目や性別、強さで差別はしてはいけないと思った。自分もこれからの学校生活で気を付けようと思う。
- ・差別って人権やいじめと関係していると思った。
- ・いじめる側も、いじめられる側の気持ちも両方知るのはいいことだと思ったけど、いじめる側を一回でもやったらよくないと思った。いじめる側にいるときは、相手側の気持ちや相手がどう思っているかをかんがえないから、行動するときには相手の気持ちを考えようと思った。
- ・人間は常に誰かの上に立ち、見下すことを快樂だと感じてしまうところがあると思った。どうしてそうなるのかという疑問は残る。人は身をもって体験しないとわからない。
- ・自分と違うからダメという考え方を変えていかないといけないと思った。
- ・差別がいけないことなのはみんな知っているけど知らないうちにしてしまっているのかなと不安になった。動画でも先生が差別をするようになって子どもたちもすぐに流されてしまっていた。動画ほどわかりやすくはなくても、日本にも差別があると思うとこわくなった。

・人と違うところがあるからといって人を差別してはいけないし、理不尽な差別を受けている人が世界にまだまだいると思うと、どうしてそんなことをするのか疑問に思った。

・授業の最初に言っていた「分ける」ということも、一種のいじめかもしれない。分けるという段階でもうアウトなのかもしれない。そのようなことも気を付けようと思った。

・動画を見て差別をしたら性格や友達関係とかが悪くなるんだと思った。動画やテレビで見るんじゃなく、この授業みたいに実際にやってみた方が差別の駄目さがわかると思った。自分の周りに差別やそれらしいことがあったら「ダメ」といえる人になりたい。

・差別って大人だから起きることだと思っていたけど、子どもでも変わりなく差別が起こってしまうんだと思った

・目の色、肌の色、生まれた場所が違うだけで、差別するのはあかんとあらためて思った。本当に大切なのは中。目・色・場所でその人のことはわからない。

・人はすぐに仲間を作りたいから、ちょっと違う人から離れていくんだと思った。

・体験しないとわからない怖さ、不安、苦しさがあるだろうけど、動画でわかった苦しさもあるから、この苦しさをちゃんと理解して分かり合うことが大事だと思った。

・差別をしていない、されていない人でもいろんな差別があることを知っているということは、世の中にはたくさんの差別があるということなんだと思う。

・動画の中で、一日だけ差別されただけで子供たちがつらい気持ちになっているのをみて、ずっと差別されている人はその何倍もつらい気持ちになっていると考えると差別はよくないと思った。

部門の取り組みを少し紹介！